加賀中だより

発行所
加賀中学校
発行年月日
令和５年
２月１５日

「挑戦」

校長　大場　めぐみ

1月29日（日）に第12回「晴れの国　岡山」駅伝競走大会が開催され、吉備中央町チームが町村の部で1位になりました。この駅伝には、中学生が男女2名ずつ走る区間が設定されています。つまり、吉備中央町の場合、加賀中学校の生徒がエントリーしなければチームが成立しません。3キロを走るのは、トレーニングが必要です。今回、男女合わせて6人のメンバーがチームに参加し、短い期間の練習で3キロを走り抜けました。中には、この大会で初めて3キロを走る生徒もいましたが、全員が力を出し切り、走り続けたことでタスキがつながりました。6人のメンバーの挑戦を誇らしく思います。この挑戦が来年も続くようにと願います。サポートしてくださったチームや保護者の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

2月10日（金）には、2年生が「立志式」を行いました。今年は授業参観日としてご案内することができました。多くの保護者の皆様の前で、色紙に書いた言葉に込めた「将来への決意」を宣言するお子さんの姿に成長を感じられたのではないでしょうか。山本町長からも激励の言葉をいただき、生徒たちは一つの節目として気持ちを新たにすることができたと思います。色紙とともに一人一人の思いが書かれた冊子を読むと、生徒が今の自分と向き合い、これからどうしたいのかをしっかり考えたことが伝わってきました。生徒たちが将来に向けて、なりたい自分でいるためには、前向きに挑戦することだと私は伝えました。そして、発明王トーマス・エジソンの「私は失敗したことがない。ただ一万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。私たちの最大の弱点は諦めることにある。成功するのに最も確実な方法は常にもう一回だけ試してみることだ。」という言葉をエールとして贈りました。生徒たちの色紙には、「勇猛果敢」「百折不撓」「挑戦」「有言実行」「万里一空」など、前向きな言葉が並んでいました。私たち大人も、今の自分を見つめなおし、前向きな挑戦をし続けたいものです。生徒たちが、著しく社会が変化していく中でも、人や社会とつながって生き生きと生きていく大人になるようにと願うばかりです。

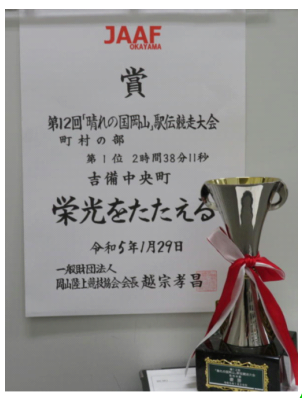
卒業式や修了式を迎える3月が近づく中、生徒会では執行部や専門委員会が「絆貯金」の活動を通して、生徒自身で学校生活をよりよくしていこうと取り組んでいます。少しずつ「自分で考えて、判断して、行動すること」が芽吹いてきているように感じています。立春が過ぎ、暦の上では春になりました。2月は「如月（きさらぎ）」と言われ、春に向けて草木が生えはじめるから「生更木（きさらぎ）」になったという説があります。加賀中学校の生徒たちの「気」も、厳しい寒さを乗り越え、育ってきています。一年間の集大成を迎える三月、加賀中学校の春が楽しみです。

☆「ストレスと上手に付き合おう」

１月27日（金）に３年生は、ストレスマネジメントのお話をSC天野先生にしていただきました。３年生は、受験を前に様々な不安やプレッシャーを抱えていることと思います。既に私立１期、公立高校特別入試は、終わっていますが、最終の進路決定に向けてまだまだ気が抜けません。みんなで最後の最後まで、声かけあって乗り切っていきましょう。

第12回　晴れの国岡山駅伝競走大会

１月29日（日）岡山市の百間川で駅伝競走大会が開催されました。本校から６名の生徒とALTのカリッサ先生がチームに登録されていました。当日は、選手として走った人と選手のサポートとして活躍した人、いろいろな役割でチームに貢献しました。そして、町村の部で１位を獲得しました。



自由参観日　２月10日（金）

１年生は、理科、音楽、国語、技術の授業を観ていただきました。理科は、「火山について」それぞれが調べたことをモニターに映しながら発表しました。音楽は、お箏で「さくらさくら」を演奏しました。

音楽

理科

国語

技術

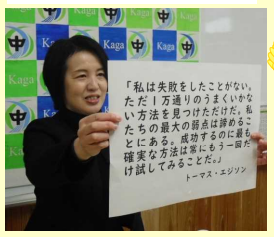
立志式

２年生は、立志式を行いました。町長からの激励の言葉もいただきました。生徒は、それぞれに自分の思いに合う言葉を選び、志を新たに「立志の誓い」を保護者の方の前で発表しました。お子様の成長を垣間見る時間になったのではないかと思います。参観においでくださり、ありがとうございました。生徒も励みになったことと思います。

２年Ａ・Ｆ組

２年Ｂ組

校長先生の言葉



令和４年度卒業証書授与式・令和５年度入学式について

令和４年度卒業式を３月11日（土）に挙行いたします。しかしながら、町教育委員会より新型コロナウイルス感染症対策のため、来賓の招待を取りやめるよう方針が示されました。この方針に従い、卒業証書授与式ならびに入学式は、ご来賓の皆様方の招待は取りやめることといたします。本来であれば、多くの方に卒業生の門出や新入生の出発を共に見守っていただきたいところですが、ご理解のほど、よろしくお願いします。特に、卒業生に格別のご指導とご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。